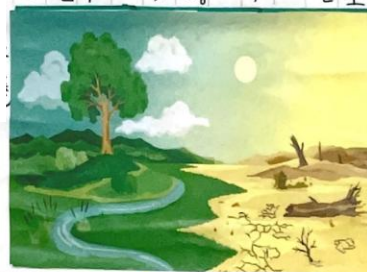


淡路島玉ねぎ
の魅力

私達の中で普段植物のことを意識して過ごす人はいるのでしょうか。身近なものに限って意識せず過ぐす事が多いと思います。現代身近な事と云えば地球温暖化。世界の言は砂漠で六十年後には全生物が絶滅してしまふ。過去に行つて信じる人はいず。未来は絶滅状態。どうしたかよい。今自分達を改善すればよいのです。このように生きやすい環境作りは地球温暖化対策に欠かせなのです。



みなさんは淡路島の玉ねぎかなぜ甘いのか知っていますか。淡路の玉ねぎは水分が多く、甘みがあるのが特徴です。

その裏に農家さんたちの色々な工夫がありました。

四季の色彩
あわじ花さじき

あわじ花さじきの
3つの魅力

1. 二九メートル
の高さから景色
を見られる
2. 十五メートル

の花畑を無料
楽しめよ
キがあり、レス
がある。

是非行つてみてくださいますか。

今回のSDG^s研修から自然について色々なことを学んだ。

それをふまえると地球温暖化対策について少しでも考えるべきだと思う。



3. 展望デッキがあり、レス
トランがある。
是非行つてみてくたさい。

編集後記

最初で最後の環境TIMEをお読みいただき、ありがとうございます。私たちは淡路花さききの感動、火おこしの苦労、タネと土のまにまにでの気付きを草びました。今回の経験は、全て最高の宝物です！この新聞を通じて、私達の気持ちをお届けしたいと思います。

淡路新聞

現在、日本の火力発電を支えている石油、天然ガス、石炭は、ほぼ一〇〇%を海外からの輸入に頼っている。もし輸入が止まるといへば、日本の火力発電は、使えなくなる。現代の農業や食料の流通は、電気なしでは成り立たない。つまり、燃料の輸入ストプは「合料自給率〇%」を意味し、日本全体が「餓死の危機に落ちる」。

すでに地球の平均気温は

て行く。花さじきには少しは時期が
まだ早い。花さじきには少しは時期が
まだ早い。花さじきには少しは時期が



淡路島玉ねぎ
収獲

先日 私達は淡路島へ行き、玉ねぎ収穫をしてきました。私達が収穫した玉ねぎは、とても大きく丸みを帯びていました。そんな大きくて重みのある玉ねぎをつくるのには村田さんの苦勞があつたのです。一つ月は肥料です。肥料はバジタリアンの人でも食べやすいように牛肥を使わず堆肥を使つています。二つ目は消費者の安全を守る工夫です。世の中の九十九パーセントの農家が農薬を使つている中、村田さんは「みんなに安全な野菜を食べてほしい」という強い思いを持ち、減薬栽培をつづけています。食べる人の健康を最優先に考えた地球に優しい玉ねぎづくりが行われているのです。

班の主張



フエが
ありま
した。み
なさん
さん。花
も。い
き。だ
さい。

編集後記

とチカラ
ことは、
るがこの
うことで
れるから
ている人
によつて
は、と、
たいです
新聞を中
学に入っ
て初め
てつくと
て、間取
りや、
字数など
、いろいろ
大變な
ことがあ
りました
が、最終
的に完成
できてよ
かつたで
す。この
経験を次
の新聞を
活かして
いき



が毎年上陸することから、五年
という短い期間で、私たちが
が持続可能な未来を創って
いくことが、地球を守る唯一
の鍵となる。



6月13日発行

地球の気温は250年前から約1・6度上昇し、人の体温でなら37・5度の熱に相当する危機的状況です。このまま温暖化が進めば気温は4・2度上昇し、風速90メートルの猛烈な台風が日土をわそうといわれています。未来を変えられるのです。あと5年です。最後で最後の世代として、一人一人が考えて行動することが求められていま

うか。その理由は、
瀬戸内海の特殊の温
帯環境が、この米を
のこす。米をなく
のたよりをなく
淡路島の玉ねぎ
を取り組めるので
社

(班の主張)

農業者のような持続可能な社会に必要なものにつな

暖かいです。2つ日は米栄と交互にさいほいし榮していきます。

2つあります。1つ目は最適な

2つあります。1つ目は最適なかです。2つ日は米栄と交互にさいほいし榮していきます。

農業者のような持続可能な社会に必要なものにつな

暖かいです。2つ日は米栄と交互にさいほいし榮していきます。

2つあります。1つ目は最適な

業が進められていきます。例えば、自動で走行トラクターや、ドローンを使ったり。農業散布な実用化されています。これらの技術は農家の負担を減らし、生産性の向上にもつながります。私たちは農業の大切さを理解し、未来の食を守るためにできることを考えていく必要があります。

淡路島では、自然の仕組みを最大限に活かした、**持続可能な資源循環型農業**を目指している。これは、化学肥料に頼らず、地域の自然や生き物の力を循環させるもので、SDGsにも繋がる農業システムです。今の日本では、約95%が海外から化学肥料を輸入して農業をしています。しかし、輸入が難しくなってしまうと野菜を作るのが難しくなってしまう。そこで、淡路島では、化学肥料の代わりに自然に寄与えない落ち葉や米ぬか、動物のふんなどを、使い、安心・安全な野菜を作れる工夫をしています。そして、これらを淡路から発信していきたい。皆士人も日本のために自分からできることについて考え、実現できたらいいですね。

あなたは食を支えているのは何だと思えますか？消費者や運送業者、食堂の方などを考えるかも知れません。しかし、僕は**農業**だと思います。現在、その農業は担い手の減少や高齢化による人手不足気候変動による災害の増加など、多くの課題を抱えています。その解決策とし



SDCについて学ぶためにたねの
まにまに行きました。

最初に才
かいその後曲
では、うつの

[illegible]

るが、いふ所の
アルに合はる
料すべし
ルでした
主重くとてた
今回の体験
き合ひまし
の生浩に生
たいと思ひ
如から
私たちは、秘
五ねぎの取腹体験
方城や出雲の流れ
屋敷には、和歌
配流したる、夏
茶や、花の

[illegible]

頃で、天氣も良かつたため、明石海峡大橋や大阪湾を背景に、じゅうたんのやうに広がるキンギョソウの花畑は、とても絶景でした。

あわじ花さじきでは、自由行動で楽しい時間を過ごすとともに、「集団行動を通して、公衆道徳や集団規律・チームワークを身につけ、生徒自らが考へて行動する姿勢を養ふ」という目的があり、ルールを守つて行動できたという良い結果になりました。

今回のあわじ花さじきでの自由行動の結果を次の高知宿泊学習の自由行動にも繋げたいと思います。

編集後記 この新聞をわかりやすく

班の主張
この間に Why をその物事に對して、相反する二の意味を歸根
同に成り立つてを試みて兩方の現点を探さうとする思ふは誤
つことをなされた。又タリマエを問ひながら外へ出た修の講義
ではオナシ無き事象と植物などの生物多様性だけの環境系
で済ます。第二、第三の二問をその中間と共有する時間を設
けたいがなれて解答すべき問題ではないことと説明と共にすれば
それでよい。終にはそれだけらしいといふことが出来る。

収獲された面々
 海外へ輸出され
 ことではある、あ
 さんしています。台
 環境に大切にした
 取り組みにうって
 取られ、これから
 ことを進め、畑を
 食卓までのことと
 いたがかりました

徴的な名
て文章だ
にしまし
今回の
聞づくり

したことは新聞名を大きく、特
 前にしたことやイラストを描い
 けでなく、目でも楽しめるよう
 た。
 新聞作りで学んだことを次の新
 でも活かしたいと感じました。

問

5

発行日
6月10日6水



A hand-drawn diagram of a cell. It features a large, irregular outer boundary. Inside, there is a smaller, roughly circular nucleus containing several small dots. To the right of the nucleus, there are several small, oval-shaped vacuoles. A wavy line extends from the top right of the cell boundary.

まず花さじきは1998年4月に明石海峡大橋の開通によ
つてできました。当時は花の島として呼ばれていま
した。花さじきには見物所があり標高235m⁵・290m²⁹⁰の高
原から大阪湾に向かつて広がる背景を見て花の見物
席」という意味をこめて「あわじ花さじき」と命名された
花さじきは季節によって色々な花が咲いており、僅



たちが行った時期には、3尺バーベラ
ーとアケラタムセロシアとサルビアと
いう花が咲いていました。



10

少くは玉ねぎ、少くは辛くて美味しい、僕は

人なより大きいしさらに美味しい、栄養もた
 りだ。あ、早くたばうれたりな。あ、早く収かく
 れたりな。あ、男の子がぼくに近づいた。あ、たか
 くてふがふかの淡路土から僕ははなれていくな。男
 子があたたかい布で僕を包む。僕の夢がかなつた。

編集後記
 新聞を書いて色々な人に淡路の良さを知って

淡路新聞

タネノチカラ

達川中学一年生は、夕ネ
 ノカカウというところに行
 きました。ほくたちはそこ
 で、火の説明を受けました。
 トヤバブル、レタス、ジマ
 ガイモなどを育てていたり
 ニワトリを飼って虫を食べ
 てから、いたりしていま
 した。コレポスターなどに
 生ゴミなどを入れて、肥料
 として、ほくたちは夕ネノ
 カカウの人達の話を聞いて
 畑仕事を手伝いました。こ
 の畑仕事をおしてほくた
 ちは、食べ物の大かさや、
 農家さんと自然のありがた
 みを学習しました。
 は、今日の研分らほくた
 ちが、小さな種が多くの人の
 努力で、自然の力によつて育
 ちました。

発行日
6月10日

玉ねぎのとうを食べてる

みかんはいつも食へてゐる部分は、
氣になつたことはありませぬが、
私たちが食へてゐる部分は、
五木がよく根葉に分類されますが、
私達が食へてゐるのは葉の根元の
脂りんだ部分です。正式には葉鞘
(ようそう)とはそれの部分は本長す
のうに太くなり重なり合つて球
のうに太くなりします。
また、この葉の部分を一枚ずつはがす
魚の鱗(うろこ)のようになるので鱗茎
(りんけい)と時どきです。

「目からウロコ」のすな、タマネギズ



コトポスターの写真 $\updownarrow$ ウォッチ



二百日後日本から石油が消える。その実能に迫った

日本は二百日後石油が消える。

私たちはこの事実について言へるため、今回新たに二班はこの事実について、月へるため、今回校外研修を利用して淡路島にある体験型農園「タネノチカラ」へと向かふ。この事実になる理由と

中東情勢の悪化に伴いホルムズ海峡の船舶通航が滞り、日本の石油輸入に支障を来していることが聞かれている。一見、農業には関係しないように見えるが、実は現行の日本農業にとつて致命的であるのだ。現在、日本の農業では非常に多くの化学肥料が使われている。そして、その化学肥料工場が、たゞ海外から運搬するためには、大量の石油が必要となり事実がある。つまり、石油の停滯は農業の稼働停止を意味し、一年後には石油がなくなり日本の食へど逼迫させられている。さういふ一つの恐ろしい現状がある。それは化学肥料に力の中にある微生物が死に、その表面に重要な土に栄養がなくなり、またエサ微生物を風が飛ばし、しまふのだ。これにより、約三十年後には植物が生えることができない土はなくなってしまうのだ。この絶望的な未来を避けるために何ができるのだろうか。その答えはネオナカに在り、タネネオナカであり、化学肥料ではなく虫を使う水を撒かずに水蒸気を使い、人工的の道を背けこのまま生活していき、栽培していき、僕たちはこれこそ、今の現状から目を覚めこのまま生活していき、全人類が滅亡するのだ。今ある技術で最大限カバーしていき、2人に1人が生き残るのか、それとも、僕たちが新しい道を切り拓き、誰も死なずに生き残るのか。これから考えていこう。

班の主張

今世界に今日紹介した課題の他にも、高齢化と食料自給率の低下、気候変動など、日本農業に極めて致命的な課題があります。実際、持続的はなすことができない。高齢化は極めて高度な高齢化は、それから天能に達しており20年間で平均年齢は65歳まであがりました。前回の文でも紹介したとおり、現在のままでは、米米は計れなくなり、工入削減を要する。行動するに、明くる1歩の必要になります。この問題は、行動の大切だと王様もよく

玉ねぎのうかき

みなさんは、玉ねぎをうかうか
したことはありませんか？
港川中学一年の生徒は玉ねぎをうかうか
しました。

淡路の玉ねぎは、一年を過して日
 照時間が長い気候と海のミネラルを
 たっぷり含んだ場所で作られてい
 ます。そのため、辛みが少ないので、
 糖度が高く、淡路島玉ねぎの皮に
 は大きく育った玉ねぎがずりりと並
 んでいました。ぼくたちは、時間をし
 忘れてしまふほど夢中になって、体
 かけくすりゃしたことまで達成がす
 は少しつかれました。達成感がす
 ごかたです。

班の主張

私達は 持続可能な社会を作ろうとしていま
その一歩の知識の備えをしています。約9割の農家が
海外の産地産米を使用しています。そのために海外
との貿易がなくてはならない。約99%の農家の人たちが
野菜を仕入れる必要があります。そこを、ごめんな
残りの約1%の農家の人たちが化学肥料のかわりに
重たいもの、ふんを月ごに 米にまいていきます。この
肥料を使用することで、産出国に野菜が作られま
す。そのようにすることで、産出国の力をサポートし日本
にまで運ぶことも可能にしたいと思っています。

食育推進協議会

編集後記

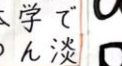
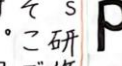
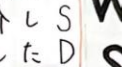
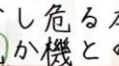
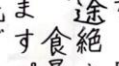
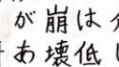
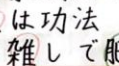
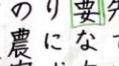
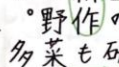
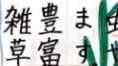
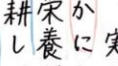
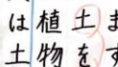
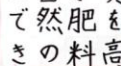
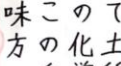
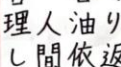
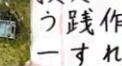
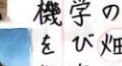
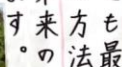
このSDG研修を
とおして、ばくの中
の常識が覆されて、
野菜への考え方が変
った。この新聞で、
多くの人達にこのこ
とを知ってもらいたい。

発行日
6月9日

発行日
6月9日

僕達は、SDGs研修で淡路に行きました。そこで学んだことを紹介します。日本の食料自給率は低く途絶えると現代農業は崩壊し、食量危機を招く危険があります。しかし、淡路島の研修先では、肥料や水、耕作も不要な方法で未経験者が野菜作りに成功していました。多くの農家は雑草を排除しますが、実は虫や雑草こそが土を豊かにします。虫の糞には植物の栄養が豊富で、ミミズは土を耕し、雑草は循環をくり返して土質を高めます。石油依存の化学肥料に頼らず、人間がこの自然の仕組みを管理して味方にできるれば、誰でも最高の畑を作れます。この方法を学び実践することが未来の危機を救う一歩になります。

石川 存子
化学肥料
↓
肥料、水、耕作
なしの
完世代農業



あわじ花さじき



王の主張

授業態度を改善して目標数値をクリアしてあげたことを褒めての自由行動をかうことができました。ぼくたちは団結力があることを先生方に見てあげることができて、

あわじ花さじきは、明石海峡から四
国まで見渡せる圧巻の絶景が魅力で
す。展望デッキからの見晴らしは息
をのむ美しさで、一面に広がる四季
折々の花畑とともに楽しいま

淡路島での玉ねぎ収穫

淡路島では、自然環境を大切にしながら、資源を有効活用する循環型農業を目指しています。その一つとして、淡路島で出る資材を活用したりサイクル農法が行われています。玉ねぎの栽培では、落ち葉や牛ふん、馬ふんを利用して堆肥を作り土をくり役立てています。また、レストランから出る生ゴミを肥料として再利用する取り組みも行われています。SDGsにもつながっています。さらに、化学肥料や化学農薬にできるだけ頼らない栽培方法を取り入れ、安心・安全な野菜づくりを目指しています。このような農業ができるのは、さまざまな虫や生き物が暮らせる環境が整っているからです。そして、そのような豊かな土や自然環境の中で育てられるのも玉ねぎの甘さにつながっています。甘い理由は、栽培期間が長く、時間をかけてじっくり育てられるからです。自然と共生しながら持続可能な農業に取り組んでいます。

要覆動し 通高見

編集後記

肥料や水、耕起も
野菜作りのに常識
なれ、めての驚きと
さを込め、た。感
ま常識が。筆
じの野変わる材
め諸者へ驚感
を届けた。い。

